

焼津市健康ゾーン構想

令和4年7月

焼津市

<目 次>

第1章 健康ゾーン構想策定の背景・位置付け	1
第1 背景・位置付け	1
第2 上位関連計画「第6次焼津市総合計画」	1
第2章 現状と課題	3
第1 大井川地区の現状	3
第2 市民意向（市民アンケート調査結果）	4
第3 健康に関する現状と課題	5
第4 まとめ	6
第3章 健康ゾーン構想の基本方針とコンセプト	7
第1 基本方針	7
第2 基本的なコンセプト	7
第3 健康ゾーン構想概念図	8
第4章 健康ゾーン拠点施設整備	10
第1 整備方針	10
第2 整備概要	11
第3 整備スケジュール	15

第1章 健康ゾーン構想策定の背景・位置付け

第1 背景・位置付け

近年、我が国では、平均寿命の延伸により世界有数の長寿国となった一方、糖尿病などの生活習慣病が増加し、さらには、高齢化の進行に伴い、寝たきりなどの要介護者も増加し、深刻な社会問題となっている。本市においても、市民が「いかに健康で長寿を迎えることができるか」が大きなテーマであり、健康づくりに関する取組は差し迫った課題となっている。

これを踏まえ、市の諸計画と整合を図り、市の将来ビジョンとして、まちづくりの方針を示した「焼津ダイヤモンド構想」が平成29年2月に策定され、この構想の拠点の一つである大井川庁舎周辺地域の「いきいき拠点（健康・福祉機能）」に、「健康ゾーン整備事業」として、メディカルや余暇活動などの健康・福祉機能を形成する方針とした。

また、市の最上位計画となる「第6次焼津市総合計画」において、重要政策の一つとして掲げる「共に支え合い豊かに暮らせるまちづくり」の健康で豊かなくらしの実現に向けた施策として「健康づくりの拠点整備」を基本事業に位置付け、健康や生きがいがいづくりにつながる機能を整備することとしている。

第2 上位関連計画「第6次焼津市総合計画」

（1）第6次焼津市総合計画とは

第6次焼津市総合計画は、将来的な社会構造の変化の視点に立ち、長期的・戦略的なビジョンとして、本市が目指すべき将来像（将来都市像）や目標を見直し、その実現に向けて市民や事業者、行政が相互・連携のもとで「より魅力あるまちづくり」を進めるため、本市のまちづくりの基本理念や将来都市像、それを実現するための政策・施策を示すものである。

（2）健康・福祉に関する政策（共に支え合い豊かに暮らせるまちづくり）

市民が自ら生活習慣病の予防や健康保持・増進に取り組むことを支援し、医療が必要なときは、適切な治療が受けられる地域医療体制の充実を進めるとともに、誰もが健康で住み慣れた地域で豊かに暮らすことができるように、健康長寿の推進と市民ニーズに対応した福祉サービスの充実を図り、地域で支え合うまちづくりに取り組む。

（3）健康・福祉に関する政策における健康ゾーンの位置付け

政策	施策	基本事業	主な内容
共に支え合い豊かに暮らせるまちづくり	健康で豊かな暮らしの実現	健康づくりの拠点整備	健康や生きがいがいづくりにつながる機能の整備

(4) その他関連計画

① やいづ健康いきいきプラン

市民の健康の保持・増進、健康寿命の延伸を目的として、「生活習慣病の発症予防や重症化予防」「健全な食生活」「歯と口の健康づくり」を市民一人ひとりが主体的に実践できるよう、社会環境の整備や地域・団体、行政の協働のもと、その取組を一体的に推進する。

② 新元気世代プロジェクト

おおむね 50 歳以上を「新元気世代」と定義し、新元気世代の日常生活における手軽な運動や食生活、スポーツや文化活動、生涯学習による趣味とボランティア活動、地域活動や就労による社会参加等を支援する。

第2章 現状と課題

第1 大井川地区の現状

(1) 豊かな資源を有する大井川地区

大井川地区は、(2)記載の公共施設のほか、大井川を水源とする豊かな水、シラスや桜えび、アメルトマトなどの豊かな食の資源を有している。

(2) 大井川地区の公共施設の現状

大井川地区には、次の公共施設等が立地し、大井川庁舎周辺では、庁舎をはじめ図書館、公民館、文化会館等の公共施設を集積した土地利用が行われている。

○大井川地区に立地している主な公共施設

(事務庁舎施設その他)

施設名	延床面積 (㎡)
大井川庁舎	4,624.8
大井川保健相談センター	730.0
大井川港 (管理事務所)	960.8

(福祉施設)

施設名	延床面積 (㎡)
大井川福祉センター「ほほえみ」	3,274.0

(子育て支援施設)

施設名	延床面積 (㎡)
大井川児童センター「ターントクルこども館とまとびあ」	679.5

(体育施設)

施設名	延床面積 (㎡)
大井川体育館	1,440.3
大井川河川敷運動公園	

(文化施設)

施設名	延床面積 (㎡)
大井川公民館	1,157.8
大井川図書館	1,485.5
大井川文化会館「ミュージコ」	4,917.0

(3) 大井川地区の公共施設の利用実態

- ①大井川保健相談センターは、健康相談、乳幼児対策等の事業を実施しており、地域に必要不可欠な施設である。
- ②大井川体育館については、稼働率が50%を超えており、市民の活発な利用が見られる。
- ③大井川文化会館「ミュージコ」については、利用者数は増加傾向にあり、文化活動に対する市民ニーズが高いことが確認できる。
- ④この他の大井川地区の公共施設についても、広く市民に親しまれており、地域にとって必要不可欠な施設である。

(4) 新庁舎建設による大井川庁舎利活用の可能性

本庁舎の建て替えが完了し、大井川庁舎の一部の行政機能が新庁舎へ移転したことに伴い、大井川庁舎において、新たな行政サービスの提供が可能となった。



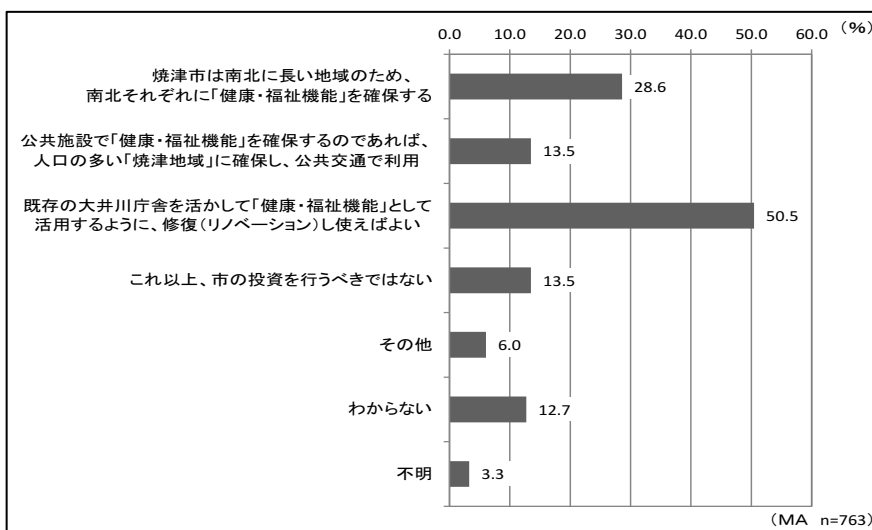
(5) その他関連施設（焼津市保健センター）

焼津市保健センターは、大井川地区を含め、市全体を管轄する施設で、保健、健康に関する事業を実施しており、新庁舎建設に伴いアトレ庁舎へ機能移転することが決定している。

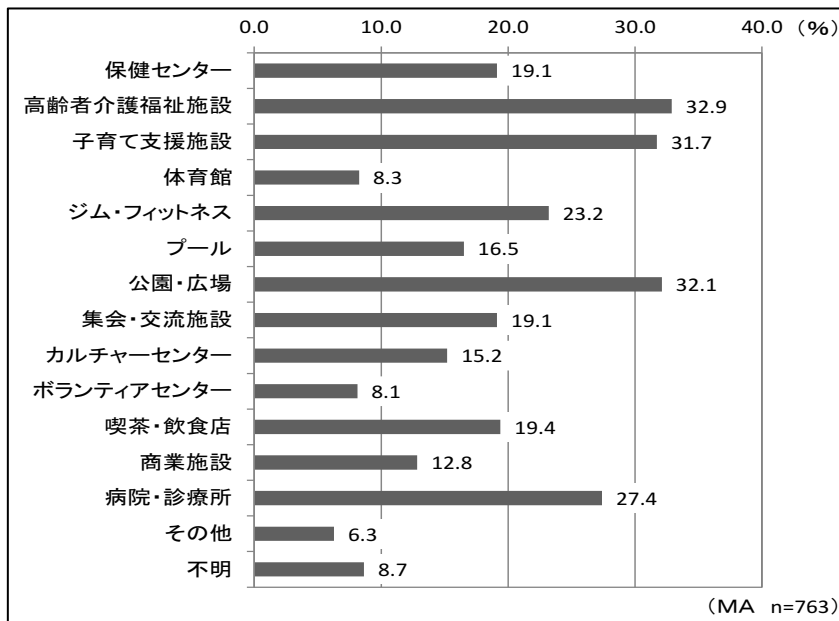
第2 市民意向（市民アンケート調査結果）

大井川庁舎周辺地域には、大井川庁舎（S59）、大井川公民館（H16）、大井川図書館（H4）、大井川文化会館「ミュージコ」（H3）等が立地しており、大井川庁舎は建設後38年が経過し施設の老朽化が懸念されるが、その他施設は比較的新しい施設であり、市民アンケート調査結果では、大井川庁舎のほか、既存の公共施設を利活用しながら、市民がいきいき活動できる環境づくりが求められている。

○健康・福祉機能の形成のために必要な取組



○健康・福祉機能の形成のために必要な施設



第3 健康に関する現状と課題

(1) 生活習慣病予防

本市では、糖尿病の有病者及び予備群該当者が県全体と比べて割合が高く、さらに高血圧症の有病者の割合も高い傾向にある。

これらの疾病は、本市において死因の上位を占める心疾患や脳血管疾患などの危険因子であるとともに、有病者の生活だけでなく、医療費負担にも大きな影響を及ぼす人工透析などの治療を必要とする原因疾患でもある。

また、これらの疾病を原因として介護認定を受ける市民の割合も県全体よりも高くなっている。

これらの現状を踏まえ、本市においては、生活習慣病を予防し、健康寿命をいかに延ばすかが重要な課題となっている。

○焼津市の主な有病状況 (県全体を100とした場合)

	糖尿病	高血圧症
男性	100.4	102.6
女性	102.9	105.8

○介護認定を受けている方の主な疾病

	糖尿病	高血圧症	脳血管疾患
県	23.2%	53.1%	24.2%
焼津市	25.9%	55.4%	26.2%

○健診データ有所見割合

		空腹時血糖	HbA1c	収縮期血糖	拡張期血糖
		100以上	5.6以上	130以上	85以上
男性	県	28.4%	57.5%	50.2%	23.0%
	焼津市	33.2%	76.2%	51.8%	24.2%
女性	県	17.4%	54.4%	45.3%	14.8%
	焼津市	20.9%	79.3%	48.6%	17.4%

(2) 新元気世代への対応

人生 100 年時代を迎え、本市においても、今後 50 歳以上の人口が半数を占めることが予想されることから、地域社会や産業をこれまでどおり維持していくためには、新元気世代が健康を維持し、様々な場面で活躍することがこれまで以上に求められている。

また、心身の健康維持には、健康的な食生活や生活習慣のほか、気分転換によるメンタルヘルス対策や生きがいつくり等にも効果が期待される定期的な運動や趣味、社会参加が重要な要素とされている。

特に新元気世代に対しては、運動や趣味、社会参加を始める機会や場を提供するとともに、定着させることが重要であり、保健予防の観点からさらなる健康福祉サービスの提供が必要とされている。

第4 まとめ

前述の現状と課題を次のとおり整理する。

1. 大井川地区は、多種多様な公共施設等や豊かな地域資源を有しており、既存の公共施設等を利活用しながら、市民がいきいき活動できる環境づくりが必要である。
2. 新庁舎建設に伴い利活用が可能となる大井川庁舎において、新たな行政サービスの提供が可能である。
3. 市民の健康寿命を延ばすため、糖尿病や高血圧症等の生活習慣病を若い年代から予防することが必要である。
4. 人生 100 年時代を迎え、新元気世代の「健康維持」と「生きがいつくり」を、さらに推進するためのきっかけづくりの場や活動の場が必要である。

第3章 健康ゾーン構想の基本方針とコンセプト

第1 基本方針

前述の現状と課題を踏まえ、健康ゾーン構想の基本方針を次のとおりとする。

運動と食生活をキーワードとする「健康維持」と、趣味と社会参加をキーワードとする「生きがづくり」の2本の柱で施策を展開し、大井川地区の公共施設等を活用して健康・福祉機能を形成することにより、市民の心と体の健康の促進を図り、生涯にわたり笑顔あふれる豊かな暮らしを送れる社会の実現を目指す。

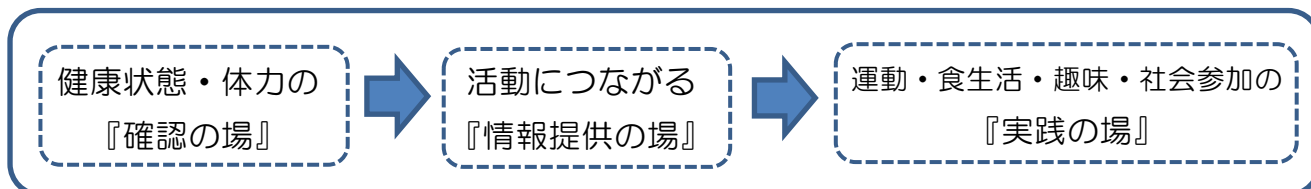
- ・運動：日常生活で体を動かすことの大切さを伝え、元気で健康な市民を増やす
- ・食生活：毎日の食生活の大切さを伝え、元気で健康な市民を増やす
- ・趣味：仕事以外の趣味を持っている市民を増やし、くらしの中で交流を広げ、笑顔で暮らせる市民を増やす
- ・社会参加：自身の経験や趣味などから培った知識や技術により、地域の担い手となる市民を増やす

第2 基本的なコンセプト

市民の心と体の健康の促進を図るためには、市民一人ひとりが日頃から自身の健康状態を把握するとともに、「健康維持」と「生きがづくり」につながる活動を行うことが重要であることから、これらの機能を有し、健康ゾーン構想の中心的な役割を果たす拠点施設として、大井川地区のシンボルである大井川庁舎をリノベーションして「（仮称）スマイルライフ推進センター」を整備する。

各種健診事業の実施とあわせ、自身の健康状態や体力を気軽に確認でき、自身の状態に応じたアドバイスや活動につながる情報提供が受けられる「（仮称）健康見える化コーナー」を設置する。あわせて、食育、健康学習に加え、運動、趣味、社会参加などの活動の場を設け、市民の「健康維持」と「生きがづくり」につながる『確認の場』、『情報提供の場』、『実践の場』として整備する。

【拠点施設のイメージ】



また、大井川地区の公共施設等を活用し、その施設の特長、規模等に応じた多様な事業を実施するとともに、拠点施設の「（仮称）スマイルライフ推進センター」と各施設との連携による、新たな事業展開等により、「健康維持」と「生きがづくり」につながるソフト事業の充実を図り、大井川地区に本市の健康づくりの核となる「健康ゾーン」を形成する。

第3 健康ゾーン構想概念図

健康ゾーン構想のコンセプト

焼津市健康ゾーン構想(健康維持と生きがいの拠点づくり)

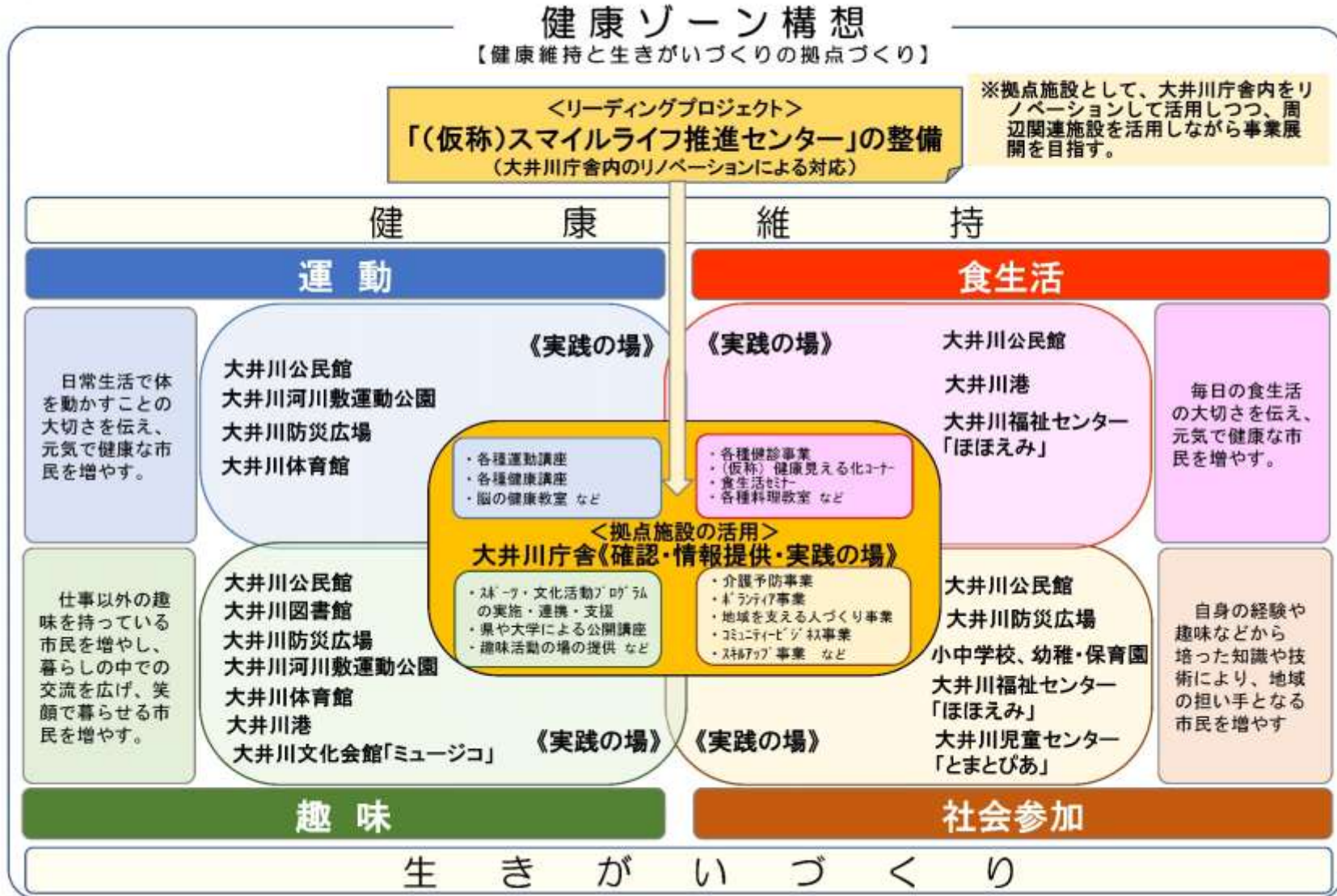
焼津ダイヤモンド構想において、「いきいき拠点(健康・福祉機能)」と位置付けられた大井川庁舎周辺を中心とした大井川地区に、関連施設を活用した健康・福祉機能を形成することにより、市民の心と体の健康の促進を図り、生涯にわたり笑顔あふれる豊かな暮らしを送れる社会の実現を目指す。

	健康維持		生きがいのづくり	
分野	運動	食生活	趣味	社会参加
方向性	日常生活で体を動かすことの大切さを伝え、元気で健康な市民を増やす。	毎日の食生活の大切さを伝え、元気で健康な市民を増やす。	仕事以外の趣味を持っている市民を増やし、暮らしの中での交流を広げ、笑顔で暮らせる市民を増やす。	自身の経験や趣味などから培った知識や技術により、地域の担い手となる市民を増やす。
取組	<ul style="list-style-type: none"> 各種運動講座 各種健康講座 脳の健康教室など 	<ul style="list-style-type: none"> 各種健診事業 (仮称)健康見える化コーナー 食生活セミナー 各種料理教室など 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ・文化活動プログラムの実施、連携、支援 県や大学による公開講座 趣味活動の場の提供など 	<ul style="list-style-type: none"> 介護福祉関連事業 ボランティア事業 地域を支える人づくり事業 コミュニティビジネス事業 スキルアップ事業など
連携施設	大井川庁舎、大井川公民館、大井川図書館、大井川文化会館「ミュージコ」、大井川体育館、大井川河川敷運動公園(陸上競技場・大井川マラソンコース「リパティエ」・スポーツ広場)、大井川防災広場、大井川児童センター「とまとびあ」、大井川福祉センター「ほほえみ」、小中学校、幼稚・保育園、大井川港 など			

※連携施設の分田イメージは別紙参照

<リーディングプロジェクト>
「(仮称)スマイルライフ推進センター」の整備
 (大井川庁舎内のリノベーションによる対応)

健康ゾーン構想の拠点施設の役割



第4章 健康ゾーン拠点施設整備 ((仮称) スマイルライフ推進センター)

第1 整備方針

市民一人ひとりが、日頃から自身の健康状態を把握し、個々の状態に応じた健康づくりへの取組を支援することを目的とし、市民が自身の健康状態や体力を気軽に確認し、状態に応じたアドバイスや情報提供が受けられる『確認の場』と『情報提供の場』とともに、「健康維持」と「生きがいくくり」につながる活動の場『実践の場』として、大井川庁舎内に『(仮称) スマイルライフ推進センター』を整備する。

2・3階 (食生活エリア、運動・趣味・社会参加エリア)

運動・食生活・趣味・社会参加の
『実践の場』

- 食育コーナー
- 健康学習コーナー
- 健康プログラム・多目的活動コーナー
- 新元気世代プロジェクト関連 (趣味・社会参加) コーナー

1階 (総合推進エリア)

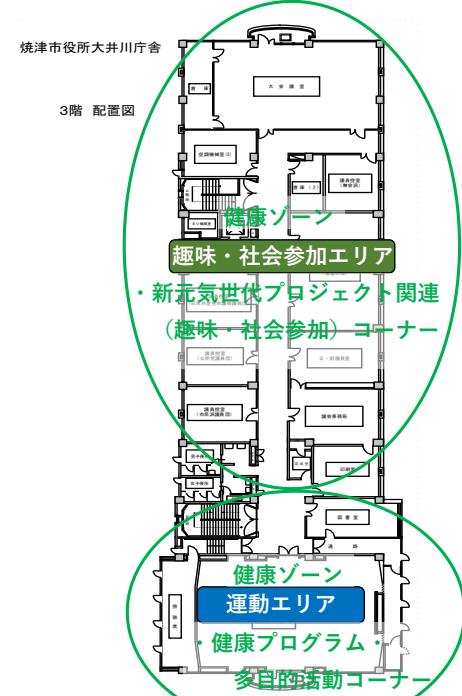
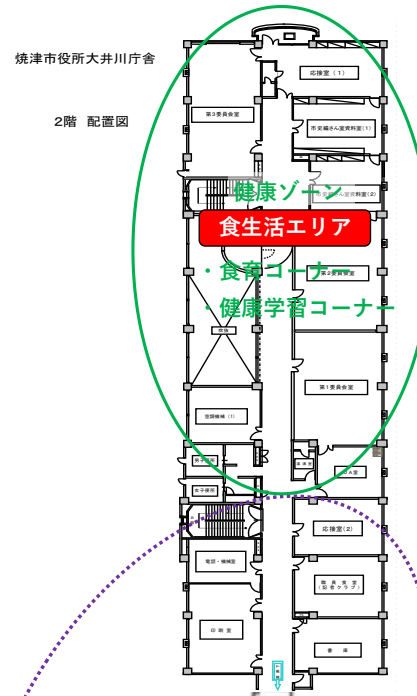
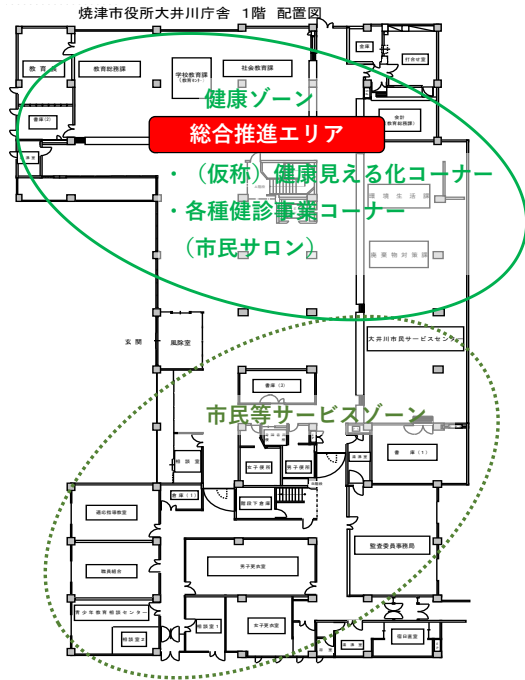
健康状態・体力の
『確認の場』

活動につながる
『情報提供の場』

- (仮称) 健康見える化コーナー
- 各種健診事業コーナー
(市民サロン)

第2 整備概要

大井川庁舎利活用 ゾーニング



【1階】総合推進エリア

①（仮称）健康見える化コーナー

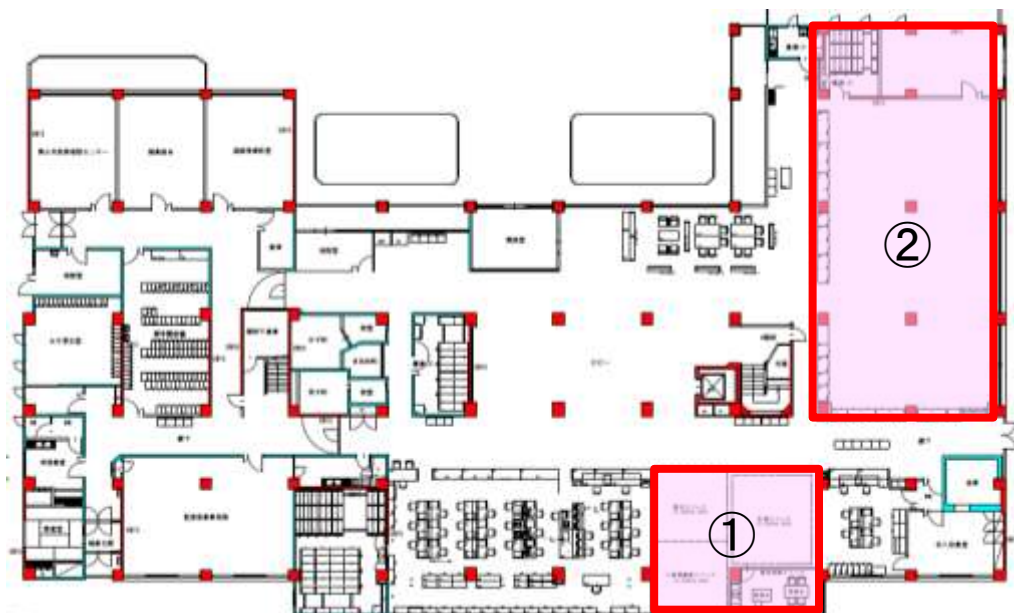
市民が自身の健康状態や体力を気軽に確認するための体組成計、血管年齢計等の計測機器を設置する計測スペースや、常駐する保健師等が健康維持のためのアドバイスや情報提供を行う相談スペースを設置する。

また、生活習慣病予防やフレイル予防に関する情報を提供する展示スペースと、関係団体等と連携した健康セミナーや各種測定会等を開催する小規模講座スペースを設置する。

② 各種健診事業コーナー（市民サロン）

これまで大井川保健相談センターで実施していた乳幼児健診をはじめとした母子保健事業や特定健診等を実施する健診スペースを設置する。

また、事業実施日以外は、市民の憩いのスペースとして、待合、休憩、自習、打合せなど、自由に利用できる市民サロンとして利用する。



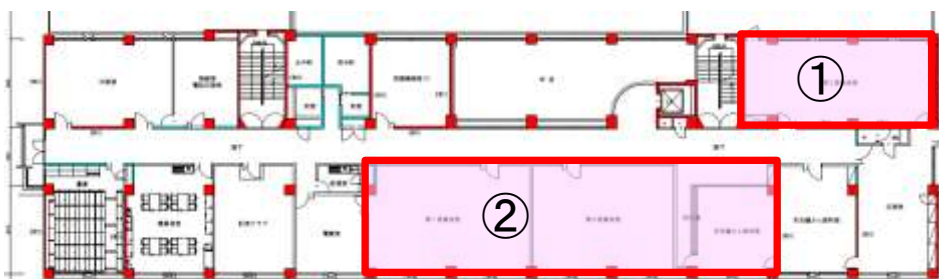
【2階】食生活エリア

① 食育コーナー

生活習慣病やフレイル予防に効果的な食事や、一人暮らしの高齢者の孤食を防ぐ食事、離乳食・幼児食等、民間事業者等と連携した料理教室や、季節の地場産品をテーマにした健康レシピ等を紹介するなど、食と健康に関する体験と情報提供のためのスペース、また、子供用の調理器具等を使用しての体験コーナーを設置する。

② 健康学習コーナー

民間事業者等と連携した各種講座や講演会の開催など、市民が健康を学ぶ場として活用するとともに、食育推進協議会や保健委員会等の研修会や会議など、市民や健康関連団体の活動のためのスペースを設置する。



【3階】運動・趣味・社会参加エリア

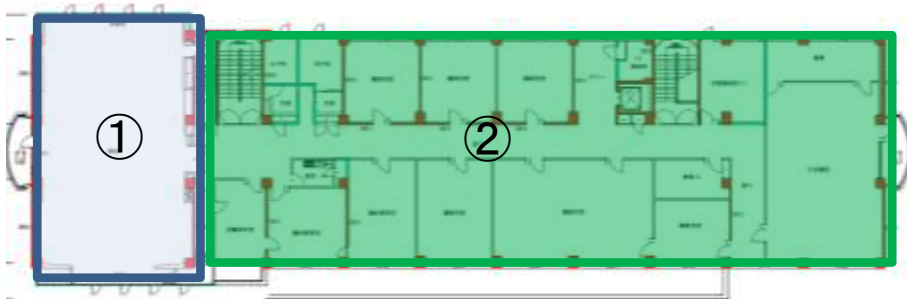
① 健康プログラム・多目的活動コーナー

健康プログラム事業や「ふまねっと」等の介護予防事業の実施や、その他、軽スポーツ、文化活動など、市民が多目的に活動できるスペースを設置する。

② 新元気世代プロジェクト関連（趣味・社会参加）コーナー

おおむね 50 歳以上の新元気世代の生きがいづくりを支援するために、趣味・社会参加の各種講座や研修会が開催できるスペースを設置する。

また、新元気世代が今まで培ってきた知識や経験を活かして活躍できるための情報提供・支援するためのスペースを設置する。



第3 整備スケジュール

	令和3年度	令和4年度	令和5年度以降
【1階】 総合推進エリア ・(仮称)健康見える化コーナー ・各種健診事業コーナー(市民サロン)	運営方法等の検討	→	
	改修設計	改修工事	供用開始 →
【2階、3階】 食生活エリア ・食育コーナー ・健康学習コーナー 運動・趣味・社会参加エリア ・健康プログラム・多目的活動コーナー ・新元気世代プロジェクト関連(趣味・社会参加)コーナー		運営方法等の検討	→
			改修設計、改修工事等

※2階・3階のスケジュールについては、現在、実施設計や工事期間等を調整中